

All for “children”

社会全体で見守ろう

子どもの笑顔を守るために

Stop child abuse

昨今、児童虐待の報道が大きく取り上げられています。
 家庭を取り巻く環境が変化し、育児不安や負担を抱えながら孤立している保護者も少なくありません。このような社会情勢の中、児童虐待の相談件数は年々増加傾向にあります。
 子供たちが安心して暮らせるまちになるよう、私たち社会全体が子どもを見守る必要があります。

子どものSOSを見逃さないで

SIGN 子どものサイン



- ・体に不自然なアザ、やけど、傷がある
- ・表情がなく、大人の顔色を気にする
- ・いつも汚れた服を着ている
- ・食事に異常に執着を示す

また、「学校に行きたがらなくて」、「ゲームばかりしている」などのお子さんに対しての心配も相談に乗っています。
 私たち相談員は、お話を聞いた上で、その人に必要なサービスマニュアルや専門的な機関、学校につながることもします。一緒にお子さんとの接し方を考えましょう。

「子どもとの関わり方が分からない」、「子どもが泣くとイライラしてしまう」などの子育てに不安を感じている親御さんの相談をお聞きしています。子育ての不安やストレスを抱え込まないで、誰かに話すことも大切なことです。

抱え込まないで
ご相談ください



子ども相談室 川橋相談員

子どもを虐待から
守るための5か条

一、「おかしい」と感じた
ら迷わず連絡

一、「しつけのつもり」は
言い訳

一、一人で抱え込まない

一、親の立場より子ども
の立場

一、虐待はあなたの周り
でも起こりうる

中野市役所子ども相談室
☎ 0269 (23) 3191

長野県中央児童相談所
☎ 026 (238) 8010

長野県児童虐待・DV ホットライン
☎ 026 (219) 2413 (24時間対応)

児童相談所全国共通ダイヤル
☎ 189 (いちばやく)



File: 11



温かい季節になりましたね。今年度も企画頑張ります！

今月の協力隊員 青木一弘 隊員
問 地域振興課 ☎ 38-3111

1年の活動を終えて

2018年4月に東京から中野市に移り住み、いろいろな体験をしてきました。消防団への入団、ジョンジョンまつりに豊津連で参加、農業経営塾、ふるさと冒険クラブ、ぼたんこしょう保存会などの活動を通して、地域に深く関わり、中野市民の一員になれてきたと感じています。

今年2月に自分で企画した親子でちらし寿司作りでは、参加者集めや料理の内容決めなどを地域の人に助けをもらいながらも、一から企画を組み立てることを経験できました。

2年目は、いままでにできた地域のつながりを生かして、企画をやっていききたいと思います。本当に、時間の経過を早く感じる1年でした。2年目も頑張るぞ！

- 1_ 2月の企画で作ったひな祭り風牛乳パックでちらし寿司
- 2_ ふるさと冒険クラブ「雪遊日」で雪上豆まきをしました
- 3_ 信州なかの農業経営塾も1年目を修了



1



2



3



池田市長の vol.62 わくわくレポート

新たな時代のスタート

この3月に、平成最後の市議会定例会が終了した。平成の御代は30年余ということで、まさに一代に符合する。祖父、父、子と人間社会はおよそ30年で世代交代する。振り返ってみれば平成は激動の時代でもあったかと思う。私自身も35歳から65歳を平成というこの時代に、駆け抜けて来た思いがあり、感慨深いものがある。1989年、平成元年に合計特殊出生率が1.57となり、人口減少がわが国に大きな問題となることが予想された。以来30年、ここに至って、少子化対策、人口減少対策が講じられるようになってきた。

地域においては人口減少対策は喫緊の課題であり、少子高齢化といった人口構造変化など人口動態は経済活動に与える影響も大きい。加えて地域コミュニティの維持といった地域社会に与えるイ



◀平成最後の定例会市議会。未来に向けた予算案の内容を説明

ンパクトも大きいものがある。私たちがいま取り組まなければならないのは、人口が減っても、暮らしやすく、活力あるこの故郷をいかに維持し発展させるかといった一点に尽きる。

新たな時代のスタートにあたって、未来に向けてこの豊かな自然と活力ある中野市を次代へしっかりと引き継いでいかなければならないと、強く思う次第である。平成31年度予算はそうしたなかで、やらなければならないことは、着実に進めるという考えのもと、予算を組み立てた。市民の皆さんとともに、一層の情報の共有を図り、コミュニケーションをとるなかで、夢ある中野市づくりに邁進したい。